

**A**\_デザインも、色や素材の使い方もすっきりとした外観。そのシンプルさゆえに、飽きることなく、長く住まうことができる。 **B**\_家の大きさに比して広い庭へ、ベンチ付きのウッドデッキが向き合う。民家の縁側のように外と家の中をつなぐ。



## 広さに頼らない 「ゆったり」「のんびり」の家

ナチュラルでシンプルで  
普遍的な、自然や時を  
感じられる住まいに

大きな家ではありません。1階部分の面積が18坪余りですが、むしろ小さなお宅です。なのに、この家にくつろぎをおぼえるのはなぜでしょう。

設計を担当した小松さんとの初回の打ち合わせで、K夫妻は「統一感、ナチュラル、シンプル、外とのつながり、窓辺にヌック」というキーワードを挙げ、二人の要望を伝えました。2回目3回目の折に、自ら描いた間取図と写真の切り抜き集を前に夫妻が口にしたのは、「ゆったり、自然や時を感じられる、普遍的」という言葉でした。

ナチュラル、シンプル、普遍的など長く住まうために大切なことについて、K夫妻と意思を一つにした小松さんは、引き算の美学を感じさせる普遍的な和の空間をベースとしながら、使い勝手や使い心地にも気を配ったジャパネティックな雰囲気はこの家をしつらえます。

外とのつながりや、自然や時を感じたいという要望を叶えたのは、たとえばリビングに設けた大開口の窓や、ベンチを据えたウッドデッキです。そこここで家族は、東に連なる山並み、植栽が受け取る風や光、それらが1日のなかで、四季の移ろいのなかで、表情を変えていくのをいつくしみます。

ヌックは階段の踊り場に設けました。その高さが絶妙で、秘密基地のような「こもり」感がありながら、外の風景も楽しめて、採光にも、屋内での視線の抜けにも役立っています。



C\_リビングの天井はダイニングキッチンより高く、素材も変えた。わずかにつけた天井のアーチも手伝い、伸び伸びとした空間になった。 D\_玄関からキッチン、ダイニングへ至るラインは、床や天井の高さ・素材のみならず板を張る方向もそろっていて美しい。リビングをより広く見せる効果もある。 E\_東側は隣家が近いので開口を減らしたが、北窓の効果もあり、ダイニングにはほど良い自然光が差す。 F\_キッチンの床はフローリングにせず、掃除のしやすい素材にした。継ぎ目の真鍮が洒落たアクセントになっている。

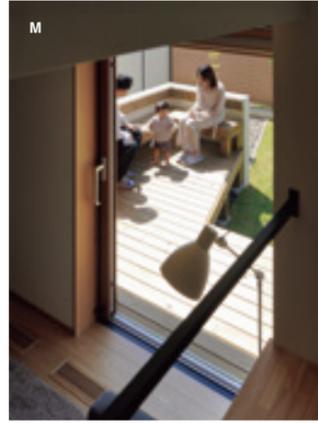
抑揚をつけた空間が  
家の広さに頼らない  
ゆったり感を演出

では、「ゆったり」はどう実現したのでしょうか。デッキを介した庭との連続性がカギですが、他にも工夫がありました。まず抑揚をつけた空間づくりです。玄関からキッチン・ダイニングへのまっすぐなラインで奥行き感を演出し、そこまでの天

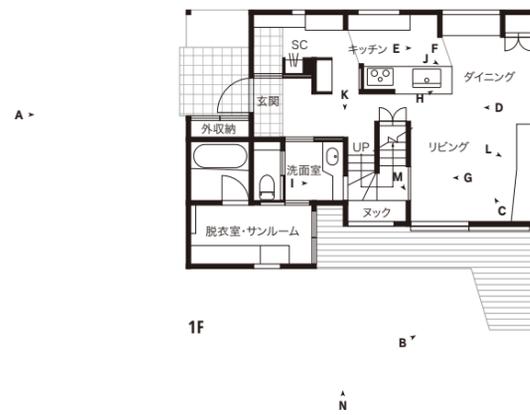
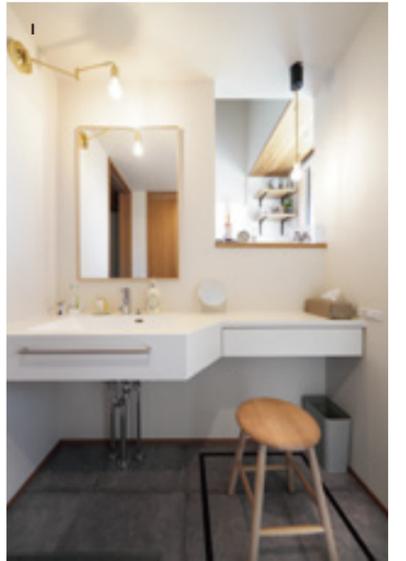
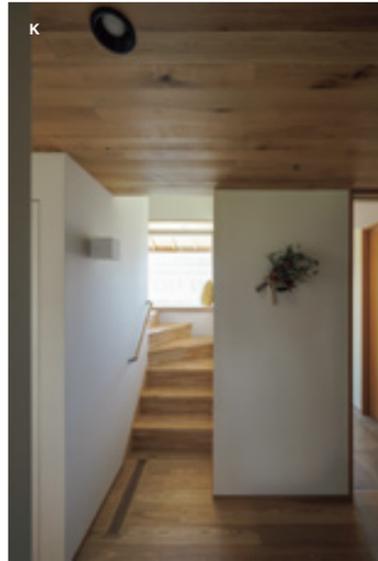
井は板張りにして高さを抑えました。緩やかなアーチを描くリビングの天井は少しだけ高くして、素材に白のクロスを用いました。リビングに入った瞬間の開放感のみならず、玄関にいるときからその予感を抱きます。また、窓やドアは上辺を天井の高さまでもってきて、目障りな横の線を減らしていること、それ自身がくつろぎスペースであるヌックを介して、リビングから西側へ視線が抜けていくことも、空間の広がりを感じさせ

るのに役立っています。動線もいい仕事をしています。夫婦の毎日を綿密にシミュレートしてできあがったそれは、リビング、ウッドデッキ、洗面室、玄関、キッチン、ダイニングを回遊しています。動線上の適所に収納を設けることで、作業の合理性と効率性はより高まり、気持ちにゆとりをもたらします。自分たちに必要なものを見極めながら、家の広さに頼らない「ゆったり」と「のんびり」を、こうして夫妻は叶えたのです。





**M** セカンドリビングのようなウッドデッキと大開口のおかげで、外の自然やそこに流れる時間をいつも感じられる。**N** 厚みを抑えた屋根のラインが端正。天井高を低めにしているから建物全体の高さも控えて、そのシンプルな美しさに魅かれる。



**DATA**

敷地面積	200.03㎡	(60.39坪)
延床面積	105.38㎡	(31.81坪)
1F面積	60.67㎡	(18.32坪)
2F面積	44.71㎡	(13.50坪)
デッキ	10.80㎡	(3.26坪)

工法/木造在来軸組工法 基礎/ベタ基礎 構造材/柱:ホワイトウッド、梁:ペイマツ、土台:ヒノキ 断熱材/屋根:Green Air Foam180mm、壁:Green Air Foam85mm、基礎:立ち上がりGreen Eco Foam90mm、スラブ Green Eco Foam45mm 主な外装仕上げ/屋根:ガルバリウム鋼板、外壁:マチックコート仕上げ 主な内装仕上げ/天井:ビニールクロス・ホワイトオーク、壁:ビニールクロス、床/アッシュ突き板フローリング・クッションフロア 開口部/樹脂製三層ガラスサッシ・木製三層ガラスサッシ キッチン/造作キッチン キッチン熱源/IHクッキングヒーター バスルーム/TOTO サザナ 暖房の種類/床下エアコン C値/0.5、UA値/0.44

**Comment**

**Owner:** Kさんご家族

**Builder:** 設計担当/小松謙太さん

**Q1. 家づくりで一番大切にされたことは?**

**A** 長く住まうために飽きのこない家にする。のんびり過ごせること。

**Q2. こうしておいてよかった、と思ったことは?**

**A** リビングの大開口窓の仕様と位置。自分たちにフィットする回遊動線。目立たないのに十分な収納とヌック。

**Q3. このビルダーさんに頼んでよかったことは?**

**A** 設計の小松さんと価値観が合っていた。要望を全部入れながら価格にも納得できた点。

**Q1. この家のコンセプト、ポイントは?**

**A** 小さな家で大きく豊かに暮らすこと。

**Q2. この家の見どころを3つに絞るなら。**

**A** 建築と自然との共生、和の美と機能性の融合。ヌックをはじめ、のんびりできる居場所の数々。

**Q3. 家づくりで一番大切にしていることは?**

**A** 要望に応えること。断熱・間取り・空間の工夫。住まい手に似合いそうな家を提案すること。



**G** 秘密基地のように「こもる」感覚がありながら、リビングにいる家族とのつながりも感じられるヌック。**H** ダイニングテーブルの向かいに設けた家事・スタジオコーナー。眺めのいい横長の窓と、その上に設けた収納の使い勝手にも満足。**I** 洗面室には朝日や緑を取り組む窓がない代わりに、ヌックからの光を取り組む開口を設けた。**J** ステンレスを薄くした造作キッチンの天板がクールな印象。木の質感との馴染みもいい。**K** 階段の踊り場に設けたヌックから光が差す。手前から外の世界への広がりを感じる。**L** 収納付きのテレビ台も造作したもの。インテリアの質感がそろって見た目にも気持ちがいい。